

科目ナンバリング		U-LAS23 20001 SO48							
授業科目名 <英訳>	中国語II A [文法・文化理解] C211 Intermediate Chinese A [Grammar, Cross-cultural understanding]				担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 上原 尉暢			
群	外国語科目群			分野(分類)				使用言語	日本語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習(外国語)(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	金3		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
<p>本授業は、現代中国語で行われたインタビュー教材をもとにして、その読解練習・音読練習を行うとともに、教材中に用いられる重要構文を用いた作文、聴写練習などを行う。その目的は、初級で学んだ文法的事項に対する理解を一層深めつつ、多様な練習問題を消化することで、中国語の総合力を強化し、中国語検定三級レベル相当の実力を確実に身につけることにある。同時にテキストに描かれる話題・内容を通して、現代の中国社会や文化への理解や関心を広げることも、もう一つのねらいとする。</p>									
【到達目標】									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中国語で書かれた簡単な文章を、無理なく理解できる程度にまで読解能力を向上させる。</li> <li>2) 中国語の発音やスピーキングのレベルを高め、同時にリスニングの精度も上げるようにする。</li> <li>3) 現代の中国社会および中国文化に関する視野を広げ、それを身につけた中国語で説明できるようにする。</li> </ol>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回 インTRODクダクシヨ、一年次の復習</p> <p>第2回 第1課・從櫃姐到創業者(上)。本文音読、訳解練習。語法ポイント(“有”を用いる連動文、雖然～但……、買不起、固定下来)の解説。</p> <p>第3回 第1課 内容に関する応答問題、聴写(ディクテーション)練習、作文練習。</p> <p>第4回 第2課・從櫃姐到創業者(下)。本文音読、訳解練習。語法ポイント(在……下、離合詞“打工”、連…都～、接続詞“既然”)の解説。</p> <p>第5回 第2課 内容に関する応答問題、聴写(ディクテーション)練習、作文練習。</p> <p>第6回 第3課 人到中年的抉択(上)。本文音読、訳解練習。語法ポイント(介詞“于”、接続詞“而”、尤其是…、副詞“就”)の解説。</p> <p>第7回 第3課 内容に関する応答問題、聴写(ディクテーション)練習、作文練習。</p> <p>第8回 第1～3課の復習を兼ねた中間テスト</p> <p>第9回 第4課 人到中年的抉択(下)。本文音読、訳解練習。語法ポイント(不是…ma、来不了、無論～都…、不如…)の解説。</p> <p>第10回 第4課 内容に関する応答問題、聴写(ディクテーション)練習、作文練習。</p> <p>第11回 第5課 一個幫留学生円夢的“進学塾”創始人(上)。本文音読、訳解練習。語法ポイント(介詞“為了”、助詞“地”、副詞“才”、疑問代詞“如何”)の解説。</p> <p>第12回 第5課 内容に関する応答問題、聴写(ディクテーション)練習、作文練習。</p> <p>第13回 第6課 一個幫留学生円夢的“進学塾”創始人(下)。本文音読、訳解練習。語法ポイント(只能…、接続詞“只要”、疑問代詞を用いる連動文、雖然～但……、買不起、固定下来)の解説。</p> <p>第14回 第6課 内容に関する応答問題、聴写(ディクテーション)練習、作文練習。今セメスターの全体的まとめ 期末テスト</p> <p>第15回 フィードバック</p>									
						中国語II A [文法・文化理解] C211(2)へ続く			

中国語II A [文法・文化理解] C211(2)

**[履修要件]**

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

**[成績評価の方法・観点]**

- ・原則として中間テスト30%、定期テスト60%、平常点（小テストや暗誦課題）10%で評価する。詳細は授業中に説明する。
- ・試験については、教科書本文や授業内で扱った練習問題をアレンジしたものを出题する予定である。

**[教科書]**

蓋暁星・長谷川賢（共著）『あなたはなぜ日本へ？インタビューで学ぶ中上級中国語』（朝日出版社、2024年）ISBN:978-4-255-45393-4

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

- 1)テキストの課文にはにはピンインが付いており、音声教材も備わっているので、普段から中国語を音読する練習をしておくこと。
- 2)授業を効率的に進めるために、十分な予習・復習をした上で授業に臨むこと。
- 3)その他中国語全般の学習方法については、授業中に適宜紹介する。

**[その他（オフィスアワー等）]**